

5月15日(土)の朝日新聞(朝刊)に  
 青翔中学のICT教育の様子が掲載されました!



# 「高校でも」ICT継続構想

小中学校などで「1人1台」のタブレット端末やパソコンを使う教育を推進する国の「GIGAスクール構想」が今春より始まっている。奈良県教育委員会は切れ目のないICT教育を継続させようと、高校段階での環境整備を構想している。(渡辺元史)

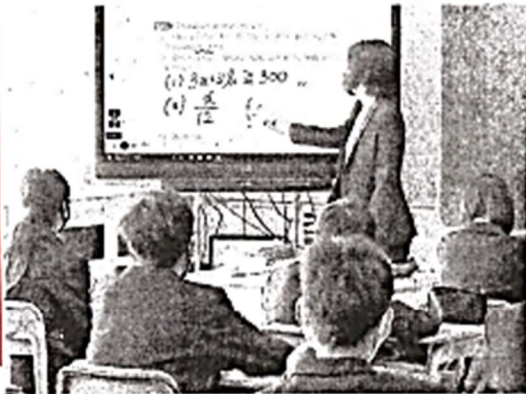
## 22年度開始目指し環境整備 県教委



県教委は、新学習指導要領が適用される2022年度の高校1年時から、約8千人がパソコンを使って授業が受けられる態勢を目指す。生徒はワードを使ったりポートに取り組み。グループ発表などでは、エクセルやパワーポイントを使って

説明資料を作成する。進学先や就職先で必要なスキルを育む狙いがある。パソコンは、生徒が好きな端末を購入して持ち込む「BYOD (Bring Your Own Device)」の採用を検討中という。数万円はかかる端末の購入費をめぐり、保護者からの異論も想定される。そのため困窮世帯の生徒には国の補助金で県教委がパソコンを購入し、貸し出す。保護者の経済的負担を減らそうと、生徒1人あたり8万円だった修学旅行費の積立額を22年度の入学者から6万円に減額。購入してもらった紙の辞書の代わりに、追加出費がないオンライン辞書を利用する。パソコンは、生徒や教員

## 電子黒板導入へ 2校で試験運用



電子黒板で授業を受ける県立青翔中学校の生徒ら。県教育委員会提供

教室の黒板と同じ内容が手元のパソコンに表示される。生徒は板書を書き写すことなく、集中して授業に耳を傾ける。近い未来、そんな授業風景が見られるかもしれない。

「1人1台」のパソコンに合わせ、県教委は高校や特別支援学校など県立学校全43校に電子黒板の導入も検討している。

電子黒板は、専用のペンなどで文字が書き込める大型ディスプレイ。表示されたグラフや動画などを保存できるほか、教員のパソコン画面をクラス全員が見られる大画面で表示することもできる。見

児童生徒のパソコンとつなぎ、資料を一斉配信することも可能だ。

県内では、奈良高校(奈良市)と青翔中学校・高校(御所市)で、すでに電子黒板の試験運用が始まっている。青翔中では、授業で使う資料を事前にオンライン上で生徒に配布。生徒は資料を元に予習する。教員は電子黒板で資料を表示させながら授業を進め、重要な部分を手書きで加える。すべて板書する手間が減り、その時間を議論や課題を考えさせることに使えるという。

「1人1台」のパソコン関連や電子黒板の事業費について県教委は来年度の一般会計当初予算への計上を検討中で、2022年度以降の開始を目指す。

## 教員応援 活用方法の動画配信

子どもに教える教員のICT活用能力を向上させようと、昨年10月から「先生応援プログラム」も始まっている。県立教育研究所がICT機器やソフトの基本的な使い方や有効な活用方法を30分ほどの動画にまとめて配信。現場の教員以外にも管理

職や保護者向けに、端末を持ち帰ることについての考え方や、子どもがインターネットを使用するうえでの注意点を紹介する動画もある。

保護者などに向けた動画は研究所のホームページから視聴できる。

とも自宅でも使用することを想定し、県立教育研究所が個人情報取り扱いを含めた使用上のガイドラインのひな型を作成する。ガイドラインは各校が実情に合わせて改訂する。

県教委の吉田育弘教育長は「ICT教育を進めることで生徒が考える時間を確保したい。授業の質を高め、受け身ではないアクティブラーニングを加速させる」と話す。

◇県内の課題の先取りや現場を歩いてニュースを追う新企画を始めます。随時掲載です。